

VRセックスにハマりしたネットアイドルは  
カードゲームに興じるか 前編

# Blue Masochistic Girl 1

# 「LINK VRAINS」

SOレテクノロジー社の開発した全感覚没入型仮想現実空間都市ひとつをまるごと再現した電腦空間には日夜多くの人が集い、現実空間と変わらぬ賑わいを見せていた

内部には様々なコンテンツがあつたが、SOレテクノロジーが特に力を入れていたのは、世界的に普及したカードゲーム「デュエルモンスタース」で、様々な支援機能が充実しており人々は新たなデュエル環境に熱狂していった

特にLINK VRAINS内で有名なデュエリストは、カリスマデュエリストと呼ばれ人々の憧れの的となっていた



都市ひとつに人々が集うとなると公的なコンテンツ以外にも、利用者間で行われる私的なコンテンツが乱立するようになっていった

その中には、あまりおおやけに語られることが憚られるモノも存在した……そう「セックス産業」である

プログラムさえ追加すれば、どんなプレイでも可能になるVRセックスを提供するこのサービスは、瞬く間にLINK VR AINSに広まっていった

SOLOテクノロジーもメディアの普及には、性的要素が重要である」と認識していたので、これらの乱立を黙認していた

ひとりのアバターが人気のないビルの谷間を歩いていた建物のひとつに入ると端末を立ち上げ、映像を表示させる何十もの画像が入れ替わり表示されていく、それらは全て性的な画像であった

やがてひとつの画像で止めると、それにタッチした



「ご指名ありがとうございますーございませうーすー！」

タッチされた画像から女の子が飛び出してきた  
それはブラック、マジシャン、ギャルであった

「『イントウザ撫隷淫ず』へいらっしやいませ〜」  
現れたブラック、マジシャン、ギャルは、デュエルに  
よるものではなく、風俗嬢の操るアバター……  
つまりここは、VRコスプレ風俗店であったのだ

「では、まずこのアバタープログラムへの切り替え  
をお願いしますね〜  
これには様々なセックス機能が備えていますので  
快適なプレイを保証いたします」



「アバター」の切り替えは終わりましたか？  
ふふ……お似合いですよ、お客様……  
あっと……マスターとお呼びじしないとですね！」

「あー……その……君は……」  
「あ、ハイハイ、Aーじゃありませんよ？ちゃんと中身は人間です」  
「あ……そうなんだ」  
「こういう不明確なやりとりは、Aーじゃできませんからね  
もちろんアバタープログラムも人間と遜色ない感触ですよ  
ほら、おっぱい柔らかかそうでしょー？」

ブラックマジシャンガールは無邪気に胸の双丘をさらけ出す  
と、その柔肉をぶるぶると揺らしてアピールする  
それを見て、瘦身ながらも筋肉質な男のアバターになった客は  
苦笑する



客がリラックスしたのを確認したブラックマジシャンガールは「目を細め、それまでの雰囲気さがらりと変えて妖艶に微笑むと足を広げて、口を開いた

「それじゃあマスター……『デュエル』します？」

そう言いつて前垂れをまくり上げる  
その股間に下着は無く、柔らかかそうな秘裂が露わになる  
ブラックマジシャンガールは、その割れ目を両手で拡げると  
再びにんまりと口の端を吊り上げた

客の目がブラックマジシャンガールの股間に吸い付けられる  
そこには綺麗なピンク色の肉ヒダが、妖しくしっとり濡れ  
ていた



「じゃあ、『先攻』はもらいますねー」

ブラックマジシャンガールは、客の前にぺたんと座りこむと胸の柔肉を捧げ持ち、客の股間に押し付ける

「デカパイを二体召喚〜……なんちゃって」  
ブラックマジシャンガールの巨乳が客の股間の肉棒を挟みこむ



「おっ！おっ！」  
ブラックマジシャンガールのバキュームフェラを  
受けて客が我慢しきれないといった様子で呻く  
ブラックマジシャンガールは「そんな客の反応を  
見ながら舌使いに緩急をつけ肉棒を吸い上げる

限界は案外早く訪れた  
ブラックマジシャンガールの肉の谷間に  
白い噴泉が勢い良く噴き上がる


「はあ、はあ……凄いよブラマジちゃん  
確かにこんなフェラテク、Aーじゃ無理だわ」

ハハッ

ゴキョ

じゅぽ  
ぢゅぽ





「どうですか？一度射精したのに全然萎えないでしょ？  
射精感だけ何度も味わえる、これがVRセックスなんです！」

ブラックマジシャンガールは口を拭いながらにっこりと微笑む  
そしてくるりと尻を向けると手をアナルにあてがい、指で広げた

「そういえばマスター、私今日から新しいプログラムを入れたん  
ですよ、これでアナルセックスにも完全に対応になりました！  
……私の『初めて』貰ってくださいます？……」

ブラックマジシャンガールの誘いに男も否応はなかった  
尻たぶに手をあてアナルがよく見えるように広げると  
肉棒をあてがう

ドキドキ  
ドキドキ





その肛門は固く引き締めてあるような見た目とは裏腹に肉棒の先端が触れると信じられない柔らかさで弾力を返す  
ずぶりと亀頭の先が肉穴にめりこみ、ブラックマジシャンガールの小さな体がビクンと震える

ビクン

ぐにゅ

ん!



肉棒がゆっくりと柔肉をかきわけ、奥へと突き進む  
そのブラックマジシャンガールの小さな肉穴が限界まで広げられ  
内蔵を圧迫されていく感覚にブラックマジシャンガールは、感極  
まったような声を上げ息を吐き出した

んほおっ

肉棒をブラックマジシャンガールの尻に深々と沈めた男は、尻を押さえつけると思い切り腰を引くするとカリが直腸の内壁をえぐり、ブラックマジシャンガールが悲鳴を上げる

肛門から肉棒が抜ける直前で腰を止めると今度は勢いよく突き挿れる

肛門を拡げられ、肉ヒダを抉られるたびにブラックマジシャンガールの嬌声が上がりに続ける

アヒッッ

チッッッッ  
チッッッ  
チッッッ  
チッッッ  
チッッッ  
チッッッ  
チッッッ



男の腰使いにブラックマジシャンガールは既に  
メロメロになっていた

男は繋がったままブラックマジシャンガールを  
抱き起こすと、上下を入れ替え、今度は下から  
突きだじはじめる

ふとももをがっちり押さえてから足を思い切  
り広げさせ、ブラックマジシャンガールの肛門  
を抉りまくる

「アアッ！ま、マスター！もうダメ！イクッ！  
初めてのアナルでイッちゃいますぅー！」

あ♡

もももうダメ♡

オオ♡

あ♡おほ♡

グッ♡



ブラックマジシャンガールが絶頂を迎えようとした瞬間  
男はぴたりと腰の動きを止めた

「?ど、どうしたんですか?マスター!」

あと一息で絶頂に達しようとしていたブラックマジシャン  
ガールは、続きをせがむ

「……なあ、ブラマジちゃん……  
アンタ本当はブルーエンジェルだろ?」



「なッ！ナニを言ってるんですか！」

「俺さ、アンタのファンなのよ」

先週アンタにデュエルを挑んだの覚えてるかなあ？

まあ覚えてないだろうな……挑戦者は多いし

で、さあ、その時アンタに貼り付けたパラサイトワーム

のカード、そこにウイルスプログラムを仕込んでおいたのに気付かなかったろ？」

ブラックマジシャンガールが青ざめていく……

「アンタをいつでも追っかけられるように座標を表示させていたら驚いたよ  
アンタ、ログインしててもデュエルしていない時は長時間ここから動かないじゃない？  
まさかとは思ったけど、こんなところで嬢をやっていたとはね……」

男はカードを取り出すと発動を宣言する  
「即効魔法『偽装看破』！」

ブラックマジシャンガールの姿が掻き消え  
本来のアバターが姿を現す……





「ああッー!!」  
いまや完全にブラックマジシャンガールの姿は消え  
カリスマデュエリスト『ブルーエンジェル』が姿を現  
していた

「いや、ほんとガツカリだよ……  
俺の天使がこんなところでチンポ漁りしてるビッチ  
だったなんてさ……やっぱアレ?  
興味本位でVRセックスしてみたなら、あまりに気持  
ちよくてドハマリしちゃったとかなパターン?  
どんだけやりまくっても、現実の体は処女のまんま  
だもんな」

「あ……あ……」

「まあ、どうでもいいさ……  
ただアンタには俺の純情を踏みにじった報いを受け  
てもらおうぜ?淫乱天使にお仕置きだ!」



「ところで気づいたか？さっきから俺が録画プログラムを  
作動させているのをよ」

「！」

「ブルーエンジェルをやってみた」って生配信してるんで  
いい声で鳴いてくれよ？」

男はそう言い放つと再び腰を動かし始める

「やめてえッ！撮らないで！この姿を犯さないで！」  
ブルーエンジェルは半狂乱になって泣き叫ぶが、男は  
それを聞き入れる様子はない……



「な、なんでッ?ぬ、抜けない!」  
ブルーエンジェルが悲鳴を上げる

「ハハハハ!体は正直ってか  
天使ちゃんの尻穴は俺のチンポを離す気はないってよ」

逃げようとしたブルーエンジェルだったが、男の言うとおりにアナルが肉棒をしっかりと啜えこんでおり、どれほど身を振っても、びくともじりなかつた

「……なんてなー  
アンタのアバターのコントロールは既に俺の手中さ  
俺の許可無しに体を動かすこともできねえし、ログアウトすら許さねえ!」



「な、なにが純情よ！結局私を犯すのが目的だったんでしょ！  
それってただのストーカーじゃない！」  
「うるせえー！ごちゃごちゃ言わずにアంతは喘いでりゃ  
いいんだよ！」

男は乱暴にブルーエンジェルの腰を抱き寄せると、再び肉棒  
を深々と突き刺した  
悔しそうにブルーエンジェルは顔を歪めるが、男の言うとおりの  
体の自由が効かない



「そういうえば、さっきイケなくてご不満のようでしたな！  
まずは一発ヌイておくか」

男はブルーエンジェルの体を揺ると己の  
肉棒をこする

その様子はもうセックスというより、ただの  
肉オナホとしか思えない扱いであった

そして男はブルーエンジェルの直腸内に射精した……



げは

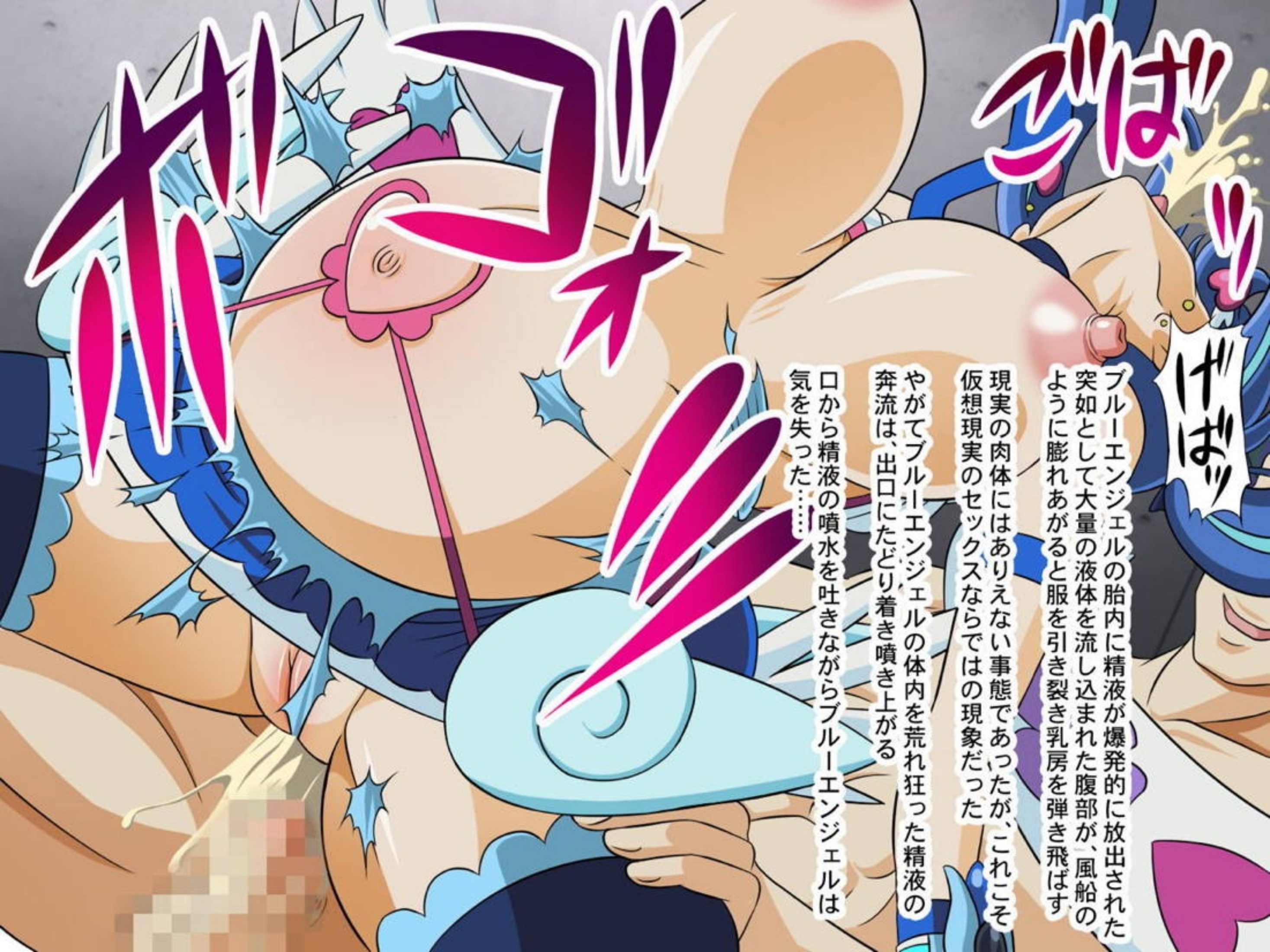
げはッ

ブルーエンジェルの胎内に精液が爆発的に放出された  
突如として大量の液体を流し込まれた腹部が、風船の  
ように膨れあがると服を引き裂き乳房を弾き飛ばす

現実の肉体にはありえない事態であったが、これこそ  
仮想現実のセックスならではの現象だった

やがてブルーエンジェルの体内を荒れ狂った精液の  
奔流は、出口にたどり着き噴き上がる

口から精液の噴水を吐きながらブルーエンジェルは  
気を失った……



広い居間に異臭が立ち込めていた

ソファからずり落ちた葵の股間からは、ちよろちよろと尿が漏れ続けている

通常、全感覚没入型仮想現実の情報現実の肉体に影響を与えることは少ない

だがあまりに強烈な快楽信号が、葵の肉体に襲いかかり蝕んでいた

今も葵は痙攣を繰り返している  
その股間は尿以外の液体が多分に  
混じり、牝の匂いを漂わせていた……

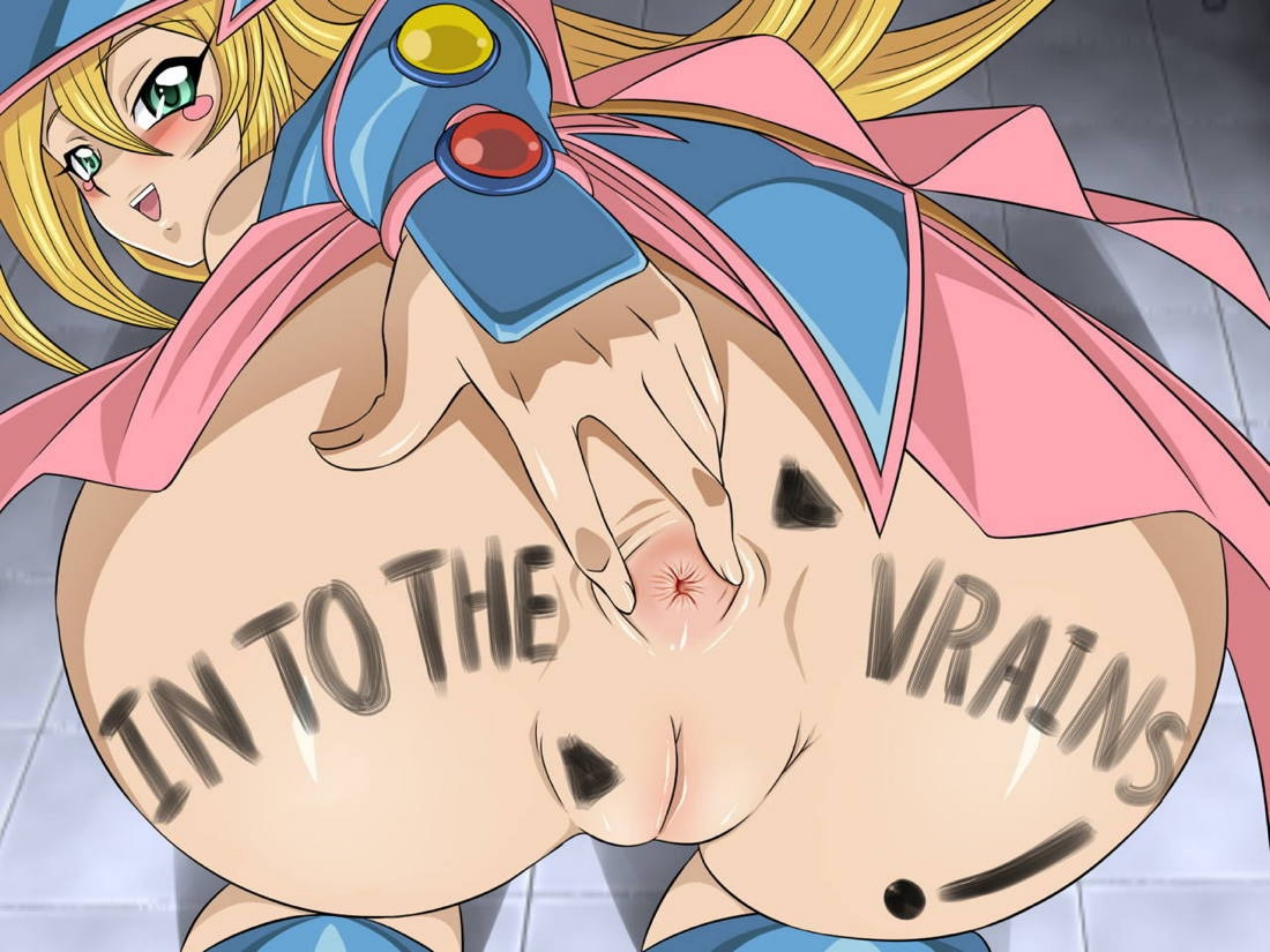
*To be continued...*











IN TO THE

VRAINS



INTO THE

VRAINS